

外国人 として 生きる

日本でのムスリム

エルハジマブルク 友美 (えるはじまぶるくともみ)

大阪大学大学院言語文化研究科

ムスリム仲間との晩餐

京都の南のとある一軒家で、友人たちが集まって夕食を楽しんでいる。家の主は中古車部品の貿易業を営むスーダン人女性。集まった仲間は、彼女の日本での学生時代からの友人で今は大学で教えるスーダン人男性と、彼女の同業者であるパキスタン人男性の一家、それにチュニジアからの留学生であるわたしの夫と日本人のわたし。彼らの共通項はムスリムであること、日本で勉学や仕事に励んでいること。スーダン人男性いわく「自分の国を離れるという犠牲に見合う成功を収めないといけない。もし成功の青信号が見られないなら国に帰ったほうがまだ」。そんな張り詰めた生活の間をぬって集まり、つかの間異国にいる寂しさを忘れ、話に花を咲かせる。日本での生活や家族のこと、自分の国について、ニューヨークとともに、そのほかの他愛ないことなど。話し出すと止まらないらしく、帰りが朝方になることもある。

ムスリム仲間との集まりなどで他に女性がいるときはわたしも参加する。男女とも、ある程度人数があるときは、男性陣と女性陣にわかれることが多いが、人数が少ないときは男女そろって食事を囲むことが多い。人が集まると食事は一緒にとることがほとんどで、普段はあ

まりしない少し手の込んだ郷土料理を作ったりする。自分の国でもそうなのから、異国で生活するうちに覚えたのかはわからないが、男性ももてなし料理を作る人が多い。

ムスリム同士交友し、食事をともにすることはイスラームで教えられ、人びとの習慣として息づいている。国や地域を越えて交友を広げられるのは海外生活ならではのかもしれないが、彼らにはムスリムやアラブといった同胞意識がある。しかし、こうして集まる仲間も、留学生などで数年したら国に帰ってしまう人が多いので、入れ替わりが頻繁だ。

同郷人との交友

わたしの夫は、大学院で経済学を学んでいる。日本への留学が決まった四年前は、在チュニジア日本大使館のロビーで人びとが話す日本語を耳にし、自分がこの不思議なことを話す様子を想像して笑ってしまっただけというが、今では日本語もすっかり上達した。チュニジアと日本はお互い遠い国のようだ。関西に住むチュニジア人は、わりと顔の広い夫の知るところで、二〇人程度。来日した当初は日本での生活になじめず、国に帰りたい気持ちをつのらせたという。そんななか、ムスリム仲間、アルジェリアやチュニジアやモロッコ

といったマグレブ地域の仲間との交友は彼にとっても大切なものだったし、今でもそうだ。

マグレブ地域の仲間との集まりは、同郷人同士だからこそわかり合える。ジョークや慣れ親しんだ方言でのおしゃべりを楽しみ、リラックスできる場らしい。家族ぐるみつきあいのほか、街中のコーヒーストップで男性だけで集まることも多く、夜も遅くなるまで話し込む。

男性だけの集まりにはわたしは参加できない。チュニジアでも同様で、夫の故郷の小さな町のコーヒーストップは連夜男性だけで賑わっていた。夏場はとくに海外に出ている人たちが里帰りしているので活気が加わり、日中の暑さからやと開放された人たちは、水タバコをふかしながら夜がふけるのも忘れて話に興じる。日本でのコーヒーストップの集まりはさながら自国のコーヒーストップ文化の延長だ。ちなみにコーヒーストップでしか会わない男性たちの奥さんは日本人も多いのだが、奥さん同士はモスクなど他の場で会わない限り面識がない。

日本での同郷人同士のつながりは、国や地域が違ったり、つきあいもごく短かったりするので、故郷の町の人びとの安心感とは違うようだが、異国にいる者同士その精神的な位置付けは大きい

ように思われる。

誘惑の多い国だ

日本に住むムスリムにとって信仰の維持はひとつの課題だ。外国から来る若いムスリム男性にとって、イスラームの禁止する婚外での女性関係に対して日本での生活は誘惑がとて大きいという。それを避けるために早く結婚する人もある。夫とわたしはたまたまモスクの前で知り合った。わたしはすでにイスラームに改宗していたから、そのまま結婚に向けて話が進んだ。日本に来てまだ短いではないか」と言う両親に対して、「日本にいてもムスリムらしい生活を送ることを希望するから、早く結婚をしたい」と答え、驚かされていたのを思い出す。

日本での研究をめざし、日本人や留学生などの外国人仲間と交友し、日本食や物質的にめぐまれた便利な日本での生活に親しむ一方で、自国での習慣やムスリムとしての生活を維持していくことは、夫にとって大切なことである。その生活の営みはたくさんさんの選択、奮闘に満ちていて、傍らにいてもわかっていないようにわかりきれないことがたくさんあるだろう。

スーダン人女性宅での晩餐



大学院の卒業式で同級生と



神戸モスクの結婚式でお祈りをする



日本の友人宅でチュニジア人の友人と水タバコを



研修で移動中の夫